

## 第三者意見

立教大学大学院  
ビジネスデザイン研究科 教授  
立命館大学大学院  
経営管理研究科 兼任講師  
**池田 耕一 氏**



世界の多くの国々で、CSR（企業の社会的責任）が大きな社会的潮流になってきました。その動きを受けて、ISO（国際標準化機構）が「環境」や「品質」と同じく「（企業をはじめとするさまざまな組織の）社会的責任」についての国際規格を2010年秋に策定する見通しです。これに参画している世界各国の産業界、消費者団体、労働団体、NPO・NGOおよび政府機関などから選出されたメンバーによる討議のキーワードは、「持続可能性」です。

地球や社会の持続可能性に赤信号が灯っている今、企業などのあらゆる組織はステークホルダー（顧客、従業員、取引先、地域社会などの利害関係者）との関係を良好に保ちCSRの推進に取り組むことによって、社会の持続可能な発展に貢献することが期待されています。その効果を上げるために、自社の取組みに加えて企業グループ全体としての活動が求められています。今後はさらに、CSRに取り組む企業は取引先に対しての働きかけを強めていくことが期待されるようになります。

あらためて関西電力グループのCSRの取組みを通観しますと、社会に不可欠なライフラインを担う事業者として「商品・サービスの安全かつ安定的なお届け」、「環境問題への先進的な取組み」、「地域社会の発展に向けた積極的な貢献」など、地球や社会の持続可能性などに関する「6つのCSR行動原則」が確立され、そして、その取組みが着実に進化していることがわかります。

例えば、従来の環境方針を見直し、新たに取り組みの柱や取組み項目を整理・追加した「環境行動方針」が2009年2月に制定され、低炭素社会の実現に向けた取組みが加速しています。また、グループ各社への支援活動の強化や地域の活性化に向けたきめ細かな取組みなど、世界的なCSRの動向と軌を一にする取組みが充実・強化されています。2008年9月に発生した美浜線21号鉄塔事故について、事故の原因や再発防止対策が具体的かつ詳細に記載されていることは「透明性の高い開かれた事業活動」へのステークホルダーからの信頼を高めます。

特筆すべきは、原油価格の乱高下や世界的な金融危機などが発生した激動の2008年において、従業員が社会の大切なライフラインを支えるために知恵と工夫を凝らし、他部門と連携しながら、また、協力会社や取引先などのステークホルダーと協力しながら、懸命に難局に対処した状況が自分の言葉で生き生きと語られていることです（巻頭の特集）。トップコミットメントにある「一人ひとりの意識改革や組織風土の改革」の深化を感じます。

今後は関西電力グループ全体のさらなるレベルアップに継続して取り組まれること、さらには、CSRのトップランナーとして取引先を巻き込んだ取組みをより一層進めていかれることを心から期待します。

### ご意見に対して

当社グループは、創業以来、半世紀以上にわたって、電力の安全・安定的なお届けを中心に、社会のお役に立ち続けることを使命として事業を営んでまいりました。

レポートにあるとおり、昨年度の難局を乗り越えられた原動力は、従業員一人ひとりの商品・サービスを安全・安定的にお届けしたいという思いに他ならないと考えます。

今後も、地球温暖化防止などに対する企業としての取組みだけでなく、従業員一人ひとりが、それぞれの責任を積極的に果たすことが、社会の持続的発展への貢献とステークホルダーからの信頼につながるということを強く意識できるよう、CSRを軸とした意識や組織風土に対する取組みを推進していきたいと考えております。

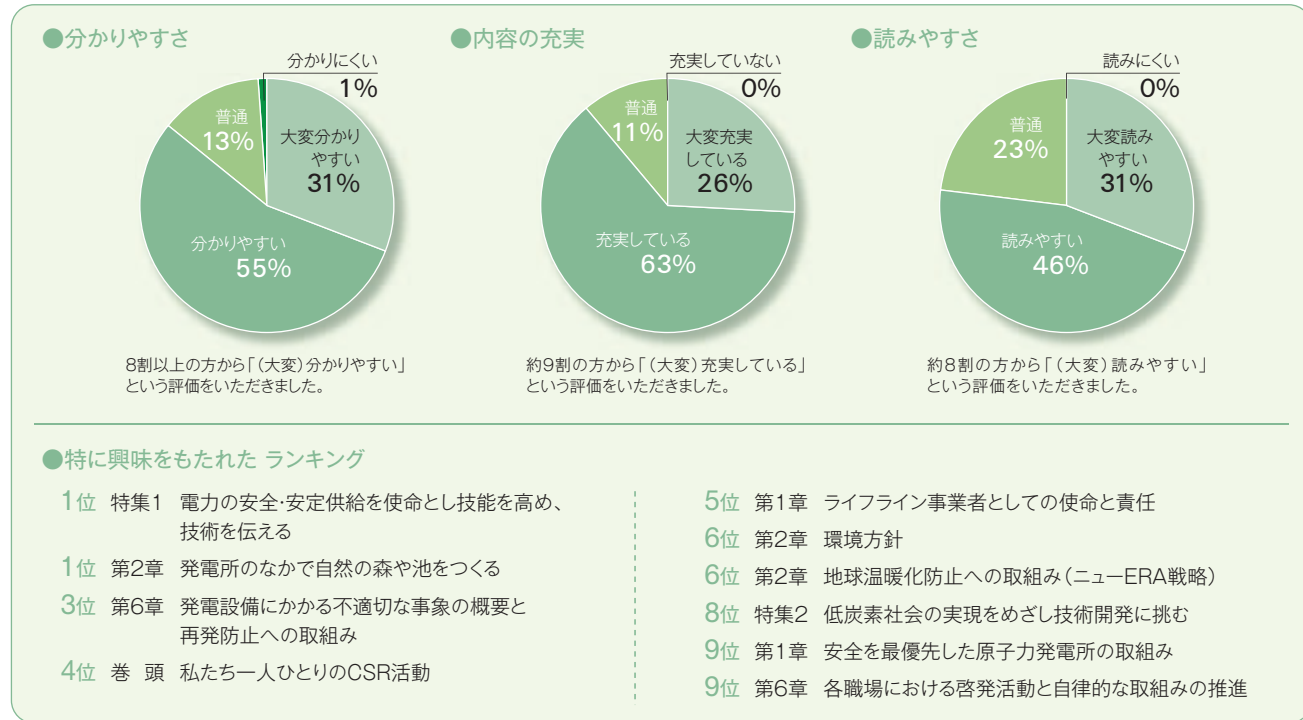


関西電力株式会社  
執行役員  
CSR・品質管理担当室長  
**白井 良平**

# 「関西電力グループCSRレポート2008」アンケート結果

私たち関西電力グループは、CSR についての考えや取組みをレポートで報告し、ご意見をいただくことが、ステークホルダーのみならず大切なコミュニケーションの機会であると考えています。昨年度は、『関西電力グループ CSR レポート 2008』を日本語版約4万冊、英語版 1,000 冊作成するとともに、当社グループの事業活動に関わるステークホルダーのみならずにご提供し、アンケートなどを通して多くのご意見を頂戴しました。こうした貴重なご意見は、事業活動に反映させるとともに、今年度のレポートの制作にも活かすよう努めました。

## ■レポートについての評価



## ■レポートについての主なご意見と対応

アンケート結果およびいただいた意見を分量、掲載内容、構成などに反映いたしました

- 「内容が多すぎる。ポイントを絞って欲しい」という意見に対して  
→ 内容が重複した部分を統合したり、一般化している内容は載せないなど、レポート全体の内容を見直しました。また、2008年版では2つあった特集を1つに減らして、より詳しい内容にするなど、メリハリのある構成にいたしました。ページ数としては、82ページ → 71ページと約10ページ減らしました。
- 「伝えたいことや戦略が見えてこない」という意見に対して  
→ 当社グループがCSR行動原則に従って活動を展開していることを巻頭ページで明確に伝え、また、当社の経営理念や経営ビジョンに対するCSR行動憲章やCSR行動規範の位置づけを明らかにしたページを設けました(P2、P7、P8)。
- 「関西電力の社員が個人としてどのような考えを持っているのか、具体的に表現した記事を期待します」という意見に対して  
→ 巻頭では、特集として、「激動2008年—そのとき当社グループは、そして従業員は」と題し、厳しい環境変化の中で、「お客さま満足No.1企業」の実現に向けた従業員一人ひとりの対応や考え方を取り上げました。また、それぞれの章でも従業員の声をできるだけ多く掲載しました。

## ■当社グループの取組みおよび事業活動に関するご意見と対応

- ネガティブな情報も発信すべきである  
→ レポートでは「美浜線No.21鉄塔事故の原因と再発防止対策」をご報告させていただきました(P19)。こうしたネガティブな情報は、美浜発電所3号機事故に関する情報も含めて、当社HPにおいてさらに詳しくお伝えしています。
- 事故や不祥事の反省はもちろん大切ですが、電気の供給は非常に重要な仕事です。社員の方が前向きに自信をもって仕事ができるような取組みをしてはどうか。電気を使う側からの期待です。  
→ 従業員が、社会から求められる期待に前向きに応えられるよう、使命感やプロ意識などを高めるような職場コミュニケーション活動を推進していきます(P9~P10)。

今後ともみなさまからいただいた評価・ご意見を参考にさせていただき、事業活動のより一層の充実を図っていきたく考えています。また、取組み状況については、今後も本レポートやホームページなどでご報告させていただきます。

## ガイドライン対照表について

GRI「持続可能性報告ガイドライン第3版」との対照および、環境省「環境報告ガイドライン2007年版」との対照に関しては、当社ホームページにて掲載しております。

<http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/>

このレポートの内容は、インターネットからもご覧いただけます。(http://www.kepco.co.jp/corporate/csr/index.html)  
また、レポートについてのご意見、お問い合わせは、下記までお願いいたします。

関西電力株式会社 企画室CSR推進グループ

TEL: (06) 7501-0270 (直通)

〒530-8270 大阪市北区中之島3丁目6番16号



みんなで止めよう温暖化  
8-4-1777351  
関西電力はチーム・マイナス6%に参加しています。

J-SUS  
環境情報については記載内容の客観的な信頼性を確保するため、第三者機関による審査を受審しています。審査を受けた結果として、サステナビリティ情報審査協会 (http://www.j-sus.org/) の定める「環境報告審査・登録マーク付与基準」を満たしているとして左記のマークの付与が認められました。

ミックス品  
FSC認証林及び管理された森林からの製品グループです  
www.fsc.org Cert no. SGS-COC-001213  
© 1996 Forest Stewardship Council

PRINTED WITH SOY INK  
印刷用インキは、環境にやさしい大豆油インキを使用しています。